



® 平成 29 年 4 月 21 日 (金)

No. 14430 1部370円(税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会

東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)

郵便番号 104-0061

[電話] 03-3535-3052

[FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4

(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆地域における観光と知的財産の関連性 (23) … (1)

☆知財高裁開廷一覧…………… (8)

☆平成29年度「知財功労賞」について …… (9)

☆特許庁人事異動…………… (15)

地域における観光と知的財産の関連性 (23)

東京理科大学専門職大学院(MIP)

教授 生越 由美

第5章 地域における事例

20. フランス国・フレノワール・グラン村 (特許権、商標権)

今回は6次産業の話から少し離れて、フランス料理に欠かせない鍋を作るの地域の伝統産業の話をする。

「ル・クルーゼ (仏: LE CREUSET)」というキッチン用品のブランドを御存知だろうか。1925年に創

業された鋳物製品などを作っているフランスが誇る世界的なブランドである。代表的な製品は、特殊な複数層ホーロー加工の鍋。熱が逃げにくく、焦げにくく、材料を入れても温度が下がりにくいといった特徴が世界的な名声を作った。グラデーションのある明るいオレンジ色の鍋をみると思いだす方も多いと思う (図1)。

脈々と受け継がれてきた鋳物技術に、「オレンジ」

官公庁、公益法人、国立大学、自治体等の契約実務・監査事務の担当者必携！

官公庁契約について唯一の実務詳説書！「官公庁契約精義」改題

官公庁契約法精義

日本大学総合科学研究所教授
元会計検査院第四局長

有川 博

二〇一六

A5 版上製箱入 本体 12,000+ 税

※お申し込みは…各都道府県官報販売所及び政府刊行物サービスセンターへ！



全国官報販売協同組合 〒114-0012 東京都北区田端新町1-1-14 TEL 03-6737-1501 FAX 03-6737-1510 <http://www.gov-book.or.jp>

という当時としては斬新な色を組み合わせたことで一躍有名になった。日本でも多くの料理愛好家に支持されている。「ル・クルーゼ」というブランド名の語源はフランス語の「溶鉱炉」である。ル・クルーゼのロゴマークの中心のオレンジ色は「溶けた鉄」を、その周りの黒い円は「溶鉱炉の形」を表現している。

ル・クルーゼ社が創業した1925年は大正14年に当たり、世界史をみるとイタリアではムッソリーニが独裁宣言をし、ヒトラーを保護する組織としてナチス親衛隊が設立された年である。米国ではクライスラー、日本では株式会社武田長兵衛商店（現：武田薬品工業株式会社）が会社を設立している。

京都では「老舗」とは「応仁の乱（1467～1477年）以前に創業した会社である」という驚くような定義をする方もいるが、ヨーロッパでは50年を超えると老舗と呼ばれる。ル・クルーゼ社は創業92年という立派な老舗である。

後藤俊夫氏の2008年の発表によると、会社の歴史が200年以上の企業が日本に3113社あるのに対し、ドイツ1563社、フランス331社、英国315社、オランダ292社、オーストリア255社、イタリア163社という。今回の話は日本にたくさんある老舗がグローバル展開する際に役立つものと考ええる。

図1：定番商品の「鍋（ココット・ロンド）」；
フランス製」筆者撮影



(1) フレノワ・ル・グラン村¹

この村はフランス北部にある人口がわずか3000人ほどの小さな村である。緑があふれ、牧歌的な風景が広がる。この村の面積は1507ヘクタールである。

パリから車で2時間ほどの場所で、ベルギーとの国境に近い。この村は古くから鉄や石炭、砂の輸送ルートがあったため、鋳物産業の歴史は200年以上もある。鉄鉱石はフランスのロレーヌ地方の鉄鉱床があり、石炭はドイツのザール炭田・ルール炭田から調達ができる。このフランスの北部地域はベルギーのルクセンブルグと共に鉄鋼業や鋳物産業が発達しやすい土壌があった。

図2：フレノワ・ル・グラン村²



(2) ル・クルーゼ社^{3,4}

ル・クルーゼ社は1925年の創業以来、本社はずっとフレノワ・ル・グラン村にある。工場は創業時から変わらぬ姿のレンガ造りである。原型作りから出荷まで、製造工程はすべて本社内で行われている。現在、本社の隣には直営店が併設されている。

<1925～1956年>

1925年、鋳物のスペシャリストである「アルマン・ドゥザゲール」と熟練のホーロー細工職人である「オクタヴ・オーベック」が出会った。2人は互いの知識を交換し合い、技術とセンスを融合させることにより、それまでにはなかった革新的なデザインと卓越した品質を叶えた鋳